

平成 27 年度第 1 回 海岸工学委員会幹事会議事録（案）

開催日時：平成 27 年 9 月 24 日(木) 14:00～17:00

開催場所：土木学会 2 階 A 会議室（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，高橋の各小委員長，北野主査，田島，荒木の各副小委員長，小笠原，片山，桐，栗山，上月，後藤，高木，武若，松山，山城の委員兼幹事，下園，原田の幹事，鈴木委員

資料：

- ・ 平成 27 年度第 1 回海岸工学委員会幹事会議事次第（資料 1）
- ・ 河川・海岸の土砂水理に関するワークショップに関する資料（資料 2）
- ・ パワーポイント資料（資料 3）

■委員会派遣について（佐々木幹事長）

土木学会論文賞選考委員会へ武若委員兼幹事を派遣。

■審議・報告事項

1. 前回議事録の確認（佐々木幹事長）

委員会 WEB に公開済み。

2. 議事前報告（佐々木幹事長）

特になし

3. 海岸工学論文集第 62 巻発行準備状況について（森小委員長，田島副小委員長，佐々木幹事長）

◆ 最終審査報告

第 1 段審査：登録論文数 381 編，審査通過論文数 298 編（+企画セッション（論文無し）2 編）

第 2 段審査：通過論文数 293 編（辞退 5 編）

第 2 段審査以降（不採択 0 編，辞退 1 編），通過論文数 292 編

海岸工学講演会での講演数 295 編（292+2（企画・論文無し）+1（通常号から））

第 2 段審査辞退論文内訳

合計 6 編（内訳：論文中で他研究機関の調査データを用いたが，調査結果報告の引用の許可が出なかった；著者の追加が認められなかった；その後の研究で主要な結論を否定する結果が出た；執筆が間に合わなかった(3 編)）

取り下げ時の手順・記録の整備について：今年度は，第 1 次審査時に登録した著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めた。

➡ 来年度の募集に際しては，辞退が及ぼす悪影響について事情説明し，辞退に至らぬよう，CECOM や投稿 web ページで注意喚起する。やむを得ぬ取り下げ等の手順に関して Q&A を整備する。

◆ JSTAGE 作業について

- (1) 今年度から組版を廃止.
- (2) B 判定, C 判定を踏襲.
- (3) 論文 DVD 作製業者に論文体裁のチェック (web システム上の題目や著者の登録情報と論文原稿上のそれとの整合性含む) を依頼. 著しくフォーマットの逸脱した原稿: 0 編, 著者が対応可能な要修正原稿: 4 編.
- (4) 論文審査～J-Stage 掲載作業までの日程について, 今年度の実績に基づき今後検討する.
 - ➡ 全体の pdf が揃い, 業者による論文体裁チェック後に論文目次および講演会プログラムを作成したため, 時間短縮にはなっていない. 現行のスケジュールで問題はないが, 時間短縮に繋がっていないので, スケジュールについて再考する.
- (5) 著者校正 (確認) は実施していない. 来年度も実施しないでよいか?
 - ➡ 今年度は業者に論文体裁チェックを依頼した. 来年度も同様とする.
- (6) 今年度は pdf 原稿電子ファイル, 紙原稿等を郵送で提出した.
来年度は紙原稿を止め, 郵送を廃止できないか?
 - ➡ pdf, csv, xml の web アップロードシステムの検討, 可能であればなるべく郵送無し, 紙原稿無しの方向で検討する. ただし, 業者からは確認のために印刷原稿を要求されている.

◆ 論文集編集 検討課題

- (1) 組版廃止に伴う投稿時期, 審査日程の見直し, 問題の確認.
 - ➡ 最終原稿の郵送が廃止となった場合, 2 週間程度の余裕が出る. それに伴って投稿時期や原稿の締め切り日程について見直すことができる. 審査日程を後ろにずらすと海岸工学委員会の日程に支障がでる可能性に配慮が必要である. 一方, 審査日程を前倒しするのであれば, 次回 11 月の海岸工学委員会までに案を用意することとした.
- (2) 土木学会論文集 B2 (通常号) への投稿促進策
特集号 (海岸工学論文集) の不採択分の投稿を呼びかけ?
 - ➡ よい表現があれば, 特集号の不採択通知に一筆入れることを検討する.
通常号掲載分の講演会での発表枠を維持する (昨年度, 今年度ともに 1 編希望有り)
- (3) 英文論文 (全文査読) の募集を継続 (投稿数 16(22), 採択数 12(16)) () は昨年
今年度から第一著者の国籍に関する制約を廃止 (日本人からの英語論文投稿は 1 編のみ)
講演会のセッションは和英混在を継続
- (4) 海岸工学講演会の活性化
昨年度新設したショートセッションは企画セッションに統合・継続 (企画セッションでは口頭発表のみ (アブストラクトのみ) の研究発表を募集 (今年度は 2 編採択))
- (5) その他
題目・著者変更ルールについての確認・周知について
 - ➡ 無断で著者を削除する, 著者の順番を変更する事例が多数あったので, 特に主査は要確認. 業者が投稿 web 上の情報と原稿情報を比較したところ, 多くの齟齬が見つかったため, 次年度以降も業者によるチェックを継続する.

◆ **来年度の編集・出版形態** → 大きな変更なし

(1) 二段階審査を維持(3月アブスト受付, 10月出版) → 日程は必要に応じて検討する

➡ 3. JSTAGE 作業(4)参照

(2) Web システム審査を継続

(3) 今年度同様に英語論文を通常論文と同じプロセスで査読

(4) 原稿の査読体制を継続(英語論文の集中を避ける配慮)

(5) 企画セッションの募集を継続

(6) J-Stage: 従来通り BIB ファイルを提出

BIB ファイル(csv形式)をXMLファイルに変換するソフトの開発について検討継続(土論編集調整会議ではB2部門によるソフト開発に期待?)

➡ 3. JSTAGE 作業(6)参照

(7) J-Stage はカラー化, 紙ベースの冊子体は廃止 → 論文集 DVD を各編に配布.

(8) 海岸工学論文賞・奨励賞(各3編)を継続, 受賞論文はCEJに推薦.

◆ **著者負担金と論文集 DVD 価格**

著者負担金 36,000 円の見込み, 論文集 DVD のみの販売は 3,000 円程度を予定.

4. **第 62 回海岸工学講演会企画 session について(武若委員兼幹事)**

2015 年 4 月 幹事会で応募状況, プログラム編成等について確認.

2015 年 6 月 委員会で応募状況, プログラム編成等について確認.

2015 年 11 月 12 日(木) 14:40-16:00, 16:10-17:30 に実施

前半 80 分は 7 つの講演 + 中北水工学委員長(招待)の講演あるいはコメント?, 後半 80 分は総合討論, 進行方法その他は検討中.

招待者の出張旅費は委員会経費から支出とし, 出張依頼の手続きを進める.

前半講演予定の「気候変動適応のための海岸堤防の必要嵩上げ高算定法に関する研究」の発表者は相松氏から間瀬氏に変更依頼あり. ⇒ 重複発表がないことを確認し, 特別に認める.

5. **第 63 回(2016 年度)海岸工学講演会企画 session について(重松委員兼幹事)**

テーマ案 2 つ(1: 東日本大震災と環境; 2: 環境問題のその後)が紹介された.

検討した関係者の間では, 1: 東日本大震災と環境を押す意見が多いとのこと. 検討継続.

6. **海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文について(佐々木幹事長)**

従来通りの手続きによる選考手続きで候補論文が選考された旨の説明があり了承された.

海岸工学論集賞は 9 編の審査対象論文から 3 編が候補として選考された.

奨励賞は 5 編の審査対象論文から 3 編が候補として選考された.

7. **海岸工学論文集の将来検討について(北野主査)**

◆ **原稿体裁について**

- (1) 6 ページ（前後に日本語要旨と英文要旨あり，英文題目に注意．）英文題目について全て大文字．
単語の頭のみ大文字の論文が多数あり，カット & ペーストで作成している英文目次に問題生じる．
- (2) 細かいフォーマットの確認は，印刷会社による目視対応は困難．副査によるフォーマットのチェックがますます重要になる．今年度の細かい問い合わせについては WEB に Q&A を整備する．
- (3) 著者からの提出物は従来通り CDROM に入れて郵送：1) pdf 原稿，2) 検索性テキスト，3) CSV 書誌情報，4) 原稿の印刷されたもの． ➡ 3. JSTAGE 作業(6)参照

◆ **スケジュールについて**

スケジュールは従来通りだが，組版廃止と著者校正廃止から手間と郵送経費が節約された．また，これまで 11 月講演会の約 1 週間前に行っていた J-Stage へ仮アップロードと 11 月講演会の当日までに行っていた J-Stage 公開について，それぞれについてできれば，10 月中旬頃に仮アップロード，11 月 1 日に公開を目指す．

◆ **DVD について**

- (1) 組版を廃止しても，目次，ページや DVD 中の検索などへの対応から諸経費はかかる．
- (2) 当日販売分は DVD に加え USB 版も付ける．民間企業に製作協力を本年度から依頼している．

◆ **次年度に向けた課題**

- (1) 組版廃止，著者校正廃止により余裕ができたスケジュールの再考については今後の検討課題．
- (2) 企業広告について，今年度は初年度で見込みが不明のため先着順としたが，企業広告の 2 枠をこえる申し込みがあったので，次年度は表紙をつけて広告面を増やすのがよいか？
➡ 企業からご意見をいただくなどして，次年度以降の広告の方法を検討していく．

8. **第 62 回海岸工学講演会の準備状況について（下園幹事）**

◆ **日程と会場**

日程：2015 年 11 月 11 日（水）～13 日（金）
会場：タイム 24 ビル（臨海副都心青海（台場））

◆ **講演会スケジュール**

通常論文 287，通常号 1，企画 7（フルペーパー 5+要旨 2） 合計 295 編
企画セッション中はパラレルセッションを 2 つ減らす
3 日間とも 8:40 開始とする．
11：50 に午前のセッション終了→昼食時の混雑緩和への配慮
17：30 に午後のセッション終了→会場予約 18：00 までとし，会場費節減

◆ **前日シンポジウムについて**

日時：11 月 10 日（火） 17:00～20:00
会場：中央大学駿河台記念館（予約済）
〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5

◆ **見学会**

実施しない

◆ **懇親会**

会場：タイム 24 ビル 10 階南棟 レストラン「シーガル」を予定

18:00 開宴 20:00 閉宴

会費 5000-6000 円程度（なるべく廉価とし、若手、学生が参加しやすいように配慮）

◆ 後援

国土交通省関東地方整備局（依頼中）

◆ 2015 年度海岸工学講演会前日シンポジウムについて（佐々木幹事長）

➡ 現時点では企画案がない。

従来は小委員会に企画をお願いして実施してきたが、企画のでなかった年度は実施していない。

以上の経緯を踏まえ、現段階では実施しない可能性が高い。企画案が出てきた場合は委員会メールリストで協議する。

9. 第 63 回、第 64 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（第 63 回：荒木副小委員長，第 64 回：渡部小委員長）

◆ 第 63 回海岸工学講演会（大阪）の準備状況

後援：国交省近畿地方整備局，大阪府，大阪市【予定】

日 程：2016 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）

会 場：大阪大学中之島センター（北区中之島）

懇親会会場：未定（周辺のホテル等，現時点での候補は以下 2 つであり，今後検討する）

A. 会場近くのホテル 徒歩 10 分

B. 大阪市中央公会堂 徒歩 30 分（交通手段あり）

見学会（予定）：

A. 大阪港・神戸港（定員 25 名程度）

B. 津波・高潮ステーションおよび安治川水門

◆ 第 64 回海岸工学講演会（北海道）の準備状況

日 程：10 月下旬を予定（北海道のため早める）

開催都市：札幌

会 場：

「A:市や道の会議場」あるいは「B:民間の会場」で検討中。

A は廉価だが，1 年前まで予約ができず，抽選もあるため，B を 2017 年 10 月末（25～27 日）で仮予約をしつつ，A を検討する。従って，開催日程は開催 1 年前頃まで確定しない見込み。

2017 年の ITS（国際津波シンポ）の日程と重複しないように配慮する。ITS を 2017 年 11 月中旬以降とするよう働きかける。

10. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

◆ Impact Factor

Impact Factor 2.25, IF をあげるために CEJ 投稿者に CEJ 論文を積極的に引用するよう働きかける（セルフサイテーションの多用は逆効果）。

◆ **特集号について**

- (1) 2015年3月 Flood risks すでに出版されているとの報告があった。
- (2) 次号 Coastal Disasters due to Typhoon Haiyan (Organizing Editor: Yoshimitsu Tajima, The University of Tokyo) は、2016年3月に出版予定との報告があった。
- (3) 次次号 Special Issue on the 5th anniversary of the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami (Organizing Editor: Tomoyuki Takahashi, Kansai University) は、38編のアブストラクト投稿から31編採択、本論文投稿受付中、1編はすでに審査中。2016年中には出版する予定との報告があった。
- (4) 次々次号 Special Issue of Climate Impact on Coastal Engineering (Organizing Editor: Nobuhito Mori, Kyoto University) 2017年3月出版予定を提案
➡ 承認された。
- (5) 論文の投稿および出版状況についての説明があった。
- (6) オンライン上でのヴァーチャルSIについて提案があり、テクニカルな部分などを含めて今後検討していく。

11. **研究小委員会の活動について（広報、沿岸域、津波、波動モデル、減災アセス 各小委員長）**

◆ **広報小委員会（川崎小委員長）**

- (1) メンバー（2015年度体制）・活動状況（Web情報の充実：災害DBの順次補充、海岸工学関連の本の紹介、海岸工学講演会関連、若手の会のページ、見学会）の報告があった。
- (2) 報告・確認事項：討議集の扱い（過年度課題）
➡ 今後の方針について協議する必要があることが確認された。

◆ **沿岸域（重松小委員長）**

特になし。2016年度海岸工学講演会企画セッションを検討中。

◆ **津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（高橋小委員長）**

- (1) 委員会の構成：高橋智幸（委員長）、富田孝史（副委員長）、越村俊一（幹事長）、今村文彦（アドバイザー）、原田賢治、今井健太郎、鈴木高二朗、松山昌史、水谷法美（WG主査）、全43名
➡ ほぼ全ての支部、および若手も多数入ったメンバーで構成されている。
- (2) 期間（2015年7月から3ヶ年）・活動状況・委員会設立の背景と目的・委員会の活動内容と期待される成果・ワーキンググループの構成と想定されるデータ・委員会の活動計画 の説明があった。

◆ **波動モデル研究小委員会（柿沼小委員長 欠席 → 代理佐々木幹事長）**

- (1) 九州大学応用力学研究所共同利用研究集会」に採択され、波動モデルに関する研究集会が開催される旨の報告があった。
- (2) 本研究集会の主催を「土木学会海岸工学委員会」とさせていただきたい旨の要望があった。
➡ 幹事会としては問題ないとの理解で前向きに検討いただくこととした。委員会共催行事とすれば、委員会評価の行事参加者数にカウントできる。ただし、開催情報をwebで公開し、一般の参加者を募ること、および参加者名簿の提出が必要。

◆ **減災アセスメント小委員会（岡安小委員長）**

委員会の活動状況について報告があった。

12. 第 51 回・第 52 回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について

◆ 第 51 回（2015 年度）実施報告（鈴木委員）

2015 年 8 月 24 日（月）～25 日（火）に横浜国立大学 理工学部講義棟で開催された。

テーマは「沿岸域の防災と減災」

参加者数は 79 名（A コースは 80 名）であった。

参加者のアンケート結果の紹介があった。

「スライドのコピーを配布してほしい」との要望が多数あった。

➡ 今年度は賛同の得られた講演者に pdf を提供いただき、受講者限定で配布した。再配布は許可しない、個人の利用に限る、等何らかのルール整備が必要で、引き続き要検討。

◆ 第 52 回（2016 年度）水工学に関する夏期研修会について（佐々木幹事長）

水工学委員会が主担当（幹事委員会）となる。

A コース 水工学委員会

開催場所候補：秋田大学手形キャンパス

開催日候補：8 月 21 日～27 日の 2 日間の予定（10 月 6 日水工学幹事会で決定予定）

B コース 海岸工学委員会

水工学幹事会の決定を受け、幹事長から東北地区に担当者選出および準備を依頼する予定

13. その他：

APAC の新体制について、河川・海岸の土砂水理に関するワークショップ案内、今後の委員会活動について

◆ APAC の新体制について（青木委員長）

Council：

佐藤（任期なし）、

青木（海岸工学委員長枠，任期 4 年・再任不可）

Int. Steering Committee：

武若（幹事枠，任期 4 年・再任不可）海岸工学委員会との連絡実務責任者

柴山（留任，任期 4 年・再任可）

越村（任期 4 年・再任可）

田島（任期 4 年・再任可）

海岸工学委員会との関係を密にすることが趣旨。9 月の APAC 会議で正式決定されたとの報告があった。

2015 年 9 月 7 日～10 日インド・チェンナイにて、日本が担当幹事として APAC 開催（ビザの問題から中国からの参加者数が少なかったが、会議としては成功）。次回は 2017 年にフィリピン開催で、担当幹事は韓国、次々回は中国担当、日本が次に担当するのは 6 年後となる。

◆ 河川・海岸の土砂水理に関するワークショップの案内（後藤委員兼幹事）

土砂輸送の二相流モデルに関する国際シンポジウム（THESIS）が 2016 年 9 月 12 日から 14 日に東京開催予定で参加が呼びかけられた。組織委員会（LOC）委員長は中央大学の福岡先生（LOC に海岸からは

東京大学の佐藤先生, 京都大学の後藤先生) . シンポジウムを軌道に乗せるため, 国内で河川・海岸の土砂水理に関するワークショップが 2015 年 10 月 19 日に土木学会講堂で開催予定 (共催: 水工学委員会, 後援: 海岸工学委員会) . 特に首都圏の先生方には若手研究者・学生参加を呼びかけて頂きたい旨の依頼があった.

◆ 今後の委員会活動について (青木委員長)

予算減や大学等の管理運営業務増加等の影響で, 一般に東京に集まって研究集会を開催することが困難な状況にある. 研究小委員会をさらに活性化するための方策の一つとして, 支部活動 (一部では予算あり) と委員会活動のリンクが考えられる旨の話があった. 例えば, 支部で検討しているローカルなテーマを委員会の場でも議論することが考えられる. テーマ設定や支部との関わり等の方法に関して意見交換がされた. 今後, 支部と連携できるようなテーマがあれば検討していくこととした.

次回の海岸工学委員会は, 2015 年 11 月 11 日 (水) 18:00～ タイム 24 ビル (東京) にて
次回の海岸工学幹事会は, 2016 年 4 月を予定

記録(原田)